

備後

教区報

第 169 号

2020(令和2)年3月31日

結ぶ絆から、広がるご縁へ
-From tying bonds to great encounters-

CONTENTS

- ◇新型コロナウイルス感染症対応について
- ◇ルポ・過疎寺院の取り組み
御調西組 龍見寺
- ◇投稿・寺院活性化の取り組み
中国新聞社、桜井邦彦記者
- ◇活動情報&インフォメーション



▲中・四国仏教青年会研修会(猫山スキー場にて)



◆一般寺院における対応について(宗派 HP より)

寺院における法要行事、法務及び会議等について、規模及び場所等の状況や、地域の環境等を踏まえ、住職が関係者と相談し、実施の必要性を改めて十分に検討したうえで、下記の通りご対応下さい。

- (1) 実施が必要なものについては、感染症拡大防止のため、政府等による公的な通知等を踏まえた措置を十分講じる等、万全の対応のもと、実施してください。
- (2) 延期もしくは取りやめ又は規模縮小ができるものについては、それぞれ必要な措置を講じたうえで、対応ください。

現在、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況のなかで、宗派より対応についてのお知らせがありました。本願寺の対応、教区の対応を報告いたします。

本願寺の対応

●常例布教中止について

聞法会館での常例布教(昼座、夜座)、御堂での晨朝布教が3月7日(土)常例布教(昼座)より、5月1日(金)晨朝布教まで中止となります。

また、他の行事についても中止、延期等になっていますので本願寺ホームページで確認してください。

●3月の得度習礼、教師教修は下記の通りの対応にて行なわれました。

得 度

- ・10日間の基本日程に沿って3月10日から3月24日の間で自らが期日を決めて自宅、または自坊において学習、練習をする。
- ・1日を振り返り、学習内容や今後の課題等について日報を作成し、レポートと共に提出。
- ・座学講義(教学等)については、各科目のレポートを提出。
- ・勤式作法については、宗務所、教区教務所、在学する宗門関係学校(卒業生は除く)にて実唱確認。
- ・日程の9日目には「理解度調査」を行なう。
- ・レポート及び「課題」の両方が基準を満たした方を修了とする。

教 師

- ・10日間の基本日程に沿って、3月13日から3月27日の間で自らが期日を決めて自宅または自坊において学習、練習をする。
- ・1日を振り返り、学習内容や今後の課題等について日報を作成し、レポートとともに提出。
- ・座学講義(教学等)については、各項目のレポート提出
- ・勤式作法については、宗務所、教区教務所、在学する宗門関係学校(卒業生は除く)にて実唱確認。各種課題に併せて10分間の法話実演も行う。
- ・日程9日目には理解度調査を行う。
- ・レポート及び「課題」の両方が基準を満たした方を修了として教師を授与し、本山での教師授与式は行わず、所属教区教務所長より「許状」を伝達する。

※今後の得度習礼、教師教修についても、感染状況によって同じ対応となるかもしれません。対象の方には、書面が送付されますのでご注意ください。

※教区の行事中止、延期については、P 14 の予定に掲載。詳細は教務所にお問い合わせください
 随時教区 HP にてお知らせいたします。 備後教区 HP <http://bingo.gr.jp/>

ルポ

▶盛況に開催された「お寺deマルシェ」



お寺の未来に不安を感じながら、何をしたらいいのだろうと悩むことが多いのではないかと。お寺だけでは限界がある。門信徒や地域にある潜在的な力の掘り起こしにつながり、そこから生まれてくる活動や地域活性化が、お寺を次代へつないでいくひとつの方策になるのではないかと思う。

12月20日(金)、第4連区教区寺院振興対策委員会連絡協議会の視察研修として訪ねた御調西組龍見寺(小島照行住職代務)の活動について報告する。

お寺を地域活性化の場所へ 住職不在の取り組み

龍見寺の歴史

御調西組龍見寺は、現在の三原市久井町坂井原地区に位置し、もともと臨済宗仏通寺派として開基された。その後、今から200年ほど前、江戸時代に聞法の道場として、現在の浄土真宗に改宗された。龍見寺は、もともと門徒数は少なかったが、教化活動が盛んに行われ、特に本年結成100周年を迎える龍見寺湧池山仏教婦人会の活動は今なお寺院の支えとなっている。

住職は兼職しながら門徒とともにお寺を護持されてきたが、病床に就かれて以降は住職不在の状態となり、門徒・地域住民のなかでも廃寺止む無しという話し合いが進められた。しか

し、仏婦活動が盛んなお寺であること、地域のお寺として法座を残していきたい等、やはり何とかお寺を護つていきたいという門徒及び地域住民の思いが強まり、5年前より住職代務というかたちで今に至っている。

寺フェスのはじまり

龍見寺で何かイベントをやってみよう、地域活性化グループ「坂井原元気プラン2グループ」の一員であった龍見寺仏婦の方の一声で企画が動き出したのが、一昨年前のことである。同団体の一員であったギークハウス広島篠崎初光さんを中心に寺フェス開催に向けた準備がスタートした。ギークハウスとは、ギーク(パソコンやITが好きな方々)の集まるシェアハウス。ギークハウス広島は「いなか×ギークハウス」をテーマに坂井原地区にて運営されており、いなか暮らしに憧れる方が、その良い部分だけでなく現実的な部分も知る場所でもある。

現在は、音楽会やフリーマーケットの開催など、地域活性化を目指しITを活用した情報発信や、地域おこしイベントの企画運

営等に携わっている。

最初は「そんなことができるのか」と懐疑的な方もいたが、企画が固まっていくに連れ、それぞれ特技を持つ地域スタッフの協力が増えていった。特に、男性スタッフのサポートは大きかったと篠崎さんは言う。

お寺deマルシェ in 龍見寺

そして迎えた寺フェス当日、お寺の荘厳な空間のなかでジャズの演奏、境内には飲食から小物販売など、地域の方の出展も含め数多

門信徒や地域にある潜在的な力の掘り起こす

くのブースが並び大変な賑わいを見せた。参加された方々からは、「田舎のお寺にこんなに多くの人が集まってびっくり!」「1日中時間を忘れて楽しめた」「普段会えない人に会うことができてよかった」など、次回開催を期待するたくさんの方の反響があった。

お寺を護っていききたいという仏教婦人会の思い、地域を盛り上げていきたいという地域活性化グループの思いが上手くリンクした。実現した寺フェス第1回目となる2018年は200人の参加であったが、翌年の第2回は、大

盛況の中、400人近くの方が遠近各地よりお越しになった。

寺院のこれから

これから先、人口が減少するなかで、過疎地においても今以上に厳しい時代となることは間違いない。その中でお寺と門信徒・地域とがどうすれば密接な関係を築いていけるかが重要な課題である。

小島住職代務は、寺フェスを通して、「住職不在であるがゆえに、門信徒の方や地域の方々が『私たちのお寺』という強い思いをもって積極的にお寺を支えてくださっ

ている」と語られた。お寺という開かれた場所に人が集うことで、門信徒や地域にある潜在的な力の掘り起こしにつながり、お寺を次代へつないでいくひとつの方策になるのではないかと思う。

今回紹介した寺フェスの事例が、すべてのお寺にあてはまるものではないと思う。しかし、今後のお寺の在り方、どのようにご法義を次代へ継承し伝え広めていくか、お寺の将来ビジョンを門信徒とともに考えていただくひとつのきっかけになればと思う。



龍見寺 x ギークハウス広島

寺フェス vol.2

in 龍見寺

お寺deマルシェ 音楽会

2019.11.10(日) 10:00~15:00

お寺deマルシェ 10:00~15:00 Schedule 音楽会 10:30~15:00

今回もたくさんの方々が参加します! (ワークショップもあります!) 詳しくは裏面をご覧ください。

ACCESS

龍見寺(リョウケンジ) 722-1414 三原市久井町坂井部2064

お問合せ: 090-8065-1926 (ナカノ) Facebookページ 「寺フェス2064」で検索

▲行事を知らせるポスター

投稿

本願寺HPで、寺院振興事業の取り組みとして、「寺院活動の活性化」「地域おこし」の紹介が掲載されている。今号の「ルポ」でも、教区内の取り組みを紹介させていただいた。

新たな取り組みを考えると、みるが、これまでやってきたことを継続するのが精一杯と自分に言い聞かせてしまう。この二つの思いを抱えている寺院は多いのではないだろうか。

過疎地、都市部の中国地方の100ヶ寺以上を取材し、各寺が抱える悩みや地道な活性化の取り組みを紹介した『人口減少寺院の底力』を出版された中国新聞社・報道センター、桜井邦彦記者に寄稿いただいた。

急激に進む過疎化

廃寺の波が中国地方にも押し寄せている。仏教系の宗教法人が、広島、山口、岡山、島根、鳥取の5県で解散や合併によって2018年までの10年間に91法人減ったのだ。そのうち、浄土真宗本願寺派が半数を占めている。寺が消える——と言われて久しいが、中国地方で新たに廃寺になるケースは近年、加速度的に増えている。中国地方の本願寺派寺院では、5県で1998〜2008年に減少したのは19寺だったが、08〜18年は46寺。倍以上のスピードで寺がなくなっている。08〜18年に山陰教区が24寺減と全国32教区で最も多かった。この期間に安芸教区は10寺、備後教区は4寺、山口教区は9寺が減った。

廃寺は、山陰で先行して問題化した。かつて銀山や林業などで栄える中、集落ごとに寺院が建てられ、住民の心よりどころとして支えられてきた。ところが、農林漁業が中心だった日本の産業構造が変わり、高度経済成長に乗って住民は町へ町へと出て過疎が急激に進んだ。特に石見地方では、他

宗旨や宗派を含めて約800寺あるのに対し、人口はおおよそ20万人という。単純に計算すれば、全員が仏教系寺院の檀家だったとして1寺当たり250人、夫婦2人世帯なら120戸ほどだ。専業で寺を維持できるレベルを超え、後継者不在のまま廃寺を迎えている。その波は今後、山陰より遅れて過疎化が進んでいる広島へも広がってくる恐れがある。本願寺派の15年の調査を見ると、後継者が決まっていない寺は山陰教区48.2%、山口教区44.5%。備後教区も41.6%と続き、廃寺の数は少ないながらも決して楽観視できない状況にない。

どうすれば活路を見いだせるか

昨今、過疎問題は寺院関係者の大きな関心事のようだ。「人口減少寺院の底力」(興山舎刊)という著書を一昨年12月に出版して以降、中国地方や関東の寺院関係者から講演依頼を受けて出向くことが増えた。そこで必ず聞かれるのは「どうすれば活路を見いだせるか」という問いだ。ただ、この問題には処方箋も特効薬も存在しない。つまり答えがないのが現実

であるし、それが分かれば誰も苦労はしない。ただ、旧来型の寺院運営をしていては未来が開きづらいのは間違いない。地域に住む門徒を相手にし、寺と住民が一つの共同体のように歩んでいくスタイルである。地域の人を大切にする姿勢は保ちつつ、車や公共交通機関でどこでもすぐに行ける移動型社会を視野に入れ、広域的な門徒との関係を築くのが急務だ。そのために、離郷門信徒のつどいなど宗派の支援を受けて取り組みは広がっている。



▲備後教区内の無住寺院

納得できる答えを伝えられるか

ただ、これも開催自体が目的となれば、集まる人が固定化し長続きしない。世代などどんな人に来てもらうか、開催でどんな成果を上げたいかを関係者で共有することがスタートラインになる。それは、過疎地の寺院に限らず、都市部でも同じことが言える。地域に住み寺を支えている世代が今後亡

ものまねでなく、それぞれにあった「オーダーメイド」を

くなれば、その子孫が近くにいないとは限らないし、いたとしても両親や祖父母と同じレベルで寺を盛り立ててくれるかは分からない。若い世代に話を聞くと、「寺と付きあえば自分にどんなメリットがあるの?」と率直な答えが返ってくる。それが現実なのだと思う。

そうした問いに彼らが納得する答えを伝え、若い世代と心のつながりをいかに保っていくか、それが対門徒関係で大切になる。

もう一つは護持のあり方だ。「複数の寺でイベントをするのは有効だと思うか」と問う寺院関係者がいる。コンサートなどを指してい

るのだろう。寺が手を携え、多くの人に向けて寺院の存在をアピールするのは、寺の結束を保ち教えを広めるには効果的だろう。ただ、それが一つの寺を守り抜いていく助けになるかというと、それは難しいのではなからうか。護持の観点に立つと、1寺1寺が経営の視点をもち、活性化策を探るしかない。大切なのは、ものまねでなく、それぞれに合った「オーダーメー

ド」の処方箋を自分たちでひねり出すことである。「隣の寺で成功しているからうちも」と取り入れても、その策が自分たちの寺に合うかどうかは分からない。

人材を生かす

ポイントとは寺族や門徒たち人材を生かすことだ。中国地方の各地を歩くと、いろんな取り組みで収益基盤を安定させている人たちに会おう。宿坊を営んで悩める現代人に寄り添う住職、イタリアン精進料理で山間部に観光バスまで誘致してしまう坊守など多彩だ。それぞれ、傾聴だったり料理だった

りと得意分野を発揮し、結果へとつなげていた。イタリアン精進のお寺は、田園と豊かな山に囲まれ、まさに過疎まった中だが、坊守は「この地域は可能性があふれている」と地域食材を生かす。その成果として跡継ぎの息子も京都から帰ってきた。息子も「次は宿坊」と夢を膨らませている。そこで机を囲むと過疎への不安をみじんも感じさせない。聞いている方も楽

しくなる。

過疎が打撃を与えているのは寺だけではない。民間の中小企業もその波にあらがいがいながら活路を見いだそうと必死だ。そんな中、寺を守り抜き未来へ引き継いで行くのはたやすいことではないだろう。ただ、こんな時だからこそ寺族と門徒で力を合わせ、知恵を絞りたい。将来にわたって持続可能な寺づくりを考えることは、地域を元気にする一歩にもなるはずだ。



▲▼イタリアン精進料理で人気の北広島町、浄謙寺



News & 活動情報



連研のための研究会

連 研

9月11日(火)、本願寺備後教堂にて連研のための研究会を開催し、各組にて連研に携わる僧侶門信徒22名が参加した。本年度は「魅力ある連研を企画するために」をテーマに、深津組・三次組より組連研取り組みについて発表した。だいた後、棚原正智連研中央講師の問題提起のもと3班に分かれての班別討議を行った。現在教区内では、連研休止中の組が多く見受けられる。過疎による参加者確保等、休止の



▲棚原正智連研中央講師

事情は様々だが、教区として連研再開に向けた働きかけを今後も続けていきたい。

活動の情報共有

ビハール

9月13日(金)、ビハール備後主催によるビハール活動団体・活動者のつどい(午前)、ビハール活動研修協議会(午後)を本願寺備後教堂にて開催し、11名が参加した。

講師は、社会福祉法人三條会の酒井亮介理事長(安芸教区高田東組養泉寺住職)をお招きした。

午前中は、教区内でのビハール活動の取り組みを情報共有し、午後からの研修協議会では、講師より「福祉施設の運営に起きていること、考えている



▲ビハール活動体・活動者のつどい

こと」と題してお話をいただいた。福祉施設の現状と、社会の光が十分に届いていない方々へ向けた施設の役割、ケアの姿勢や生き方の提示から、地域との繋がりを意識していく学びを深めた。

千鳥ヶ淵法要参拝

教 区 会

9月17日(火)・18日(水)と教区会では、3月31日の議員任期満了を迎えるにあたり、築地本願寺参拝をはじめ、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参拝など、1泊2日の研修を行った。千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要では、ご門主ご臨席のもと、結衆には各教区教務所長、列衆には各教区代表者が出勤し、備後教区を代表し、小島照行組長代表が出勤した。そのほか、国会議事堂参拝、観・豊洲市場を見学するなどの研修を行った。



▲国会議事堂の前にて

重点プロジェクト研修会

実践運動

9月26日(木)、実践運動教区委員会では、宗門全体が設定する重点プロジェクト「貧困の克服に向けて」の学びを深めるため、研修を行った。

研修では、反貧困ネットワーク広島代表を務める秋田智佳子弁護士が「子どもの貧困問題の現状について」と題し、貧困に直面する子どもたちのおかれている現状や生活困窮者の自立支援についての講義を行った。また、「寺院や門信徒においても、生活困窮者からの相談があった場合、役所に設置されている専門機関へ同行する等の対応ができる」等、対応方法についても提案があり、有意義な研修となった。参加者は僧侶並びに門信徒31名。



▲秋田智佳子弁護士

中・四国青年のつどい開催

仏 青

10月5日(土)～6日(日)にかけて、猫山スキー場(庄原)にて、中・四国真宗青年のつどいを備後教区仏教青連盟主催で開催した。

つどいには、34名が参加し、長谷川憲章住職(三谿組善徳寺・元仏教青年連盟中央委員長)より「スモークチーズ・ピザの作り方」を伝授頂いた。参加者は共同作業を通して相互理解を深めつつ、二日目の哲学カフェに望んだ。「ゲームは悪影響か」と題して、各班に分かれて議論が交わされ、参加者同士の思いを分かちあう「つどい」となった。



▲BBQを楽しむ参加者

第24回平和のつどい

実践運動

10月18日(金)、24回目の開催となる「平和のつどい」を深津組、沼隈西組、沼隈南組の担当で福山市西部市民センターにて開催し、457名の僧侶、門信徒及び関係者が参加した。「今日、あなたも原爆の記憶を継承する一人に」をテーマに集いは開催され、2名の出演者による講演が行われた。

講演①では、原爆で子どもを亡くした父母の手記「星は見えている」を、俳優・劇作家、曾我潤心さん(世羅組西教寺衆徒)が朗読し、原爆の悲惨さ、日常を失った人びとの人間模様が語られ、参加者の心に響いた。

講演②では、シンガーソングライター二階堂和美坊守(安芸教区佐伯西組大龍寺)によるオリジナルソング



▲「平和のつどい」開会式

と法話がなされ、会場全体が感動と平和への思いに包まれた。

大勢の参加者とともに、平和への思いを共有し、記憶に残る集いとなった。

子どもたちの居場所づくり

こども・若者ご縁づくり

10月23日(水)、宗派のこども・若者ご縁づくり推進委員会から講師を迎え、連絡協議会と研修会を開催した。

午前中は広島FMで主に中高生を対象とした「9ジラジ」のパートナリティを務める大窪シゲキさんをお招きし、「子どもたちの居場所づくり」10代との関わり方・コミュニケーション」をテーマにした特別講演、若者への熱い思いをお話いただいた。

午後には宗派こども・若者ご縁づくり



▲大窪シゲキさんを囲んで記念写真

くり推進委員会の山上正尊委員より運動の成り立ちと目的についての講義をいただいた。講義の後は、参加者班別にて今後のご縁づくり推進に向けた意見交換を行った。

仏婦・寺婦実践研修会

仏婦・寺婦

10月24日(木)、仏教婦人会連盟では、堀浄信施設長(児童養護施設光明童園)を招聘し、「子どもたちの笑顔のために」児童養護施設の活動を通して「マに寺族婦人会連盟と合同の実践運動研修を行った。

午前中は、児童養護施設の現場事例の紹介や、統計的なデータから、現在子どもたちがどのような環境で生活し、どのような悩みを抱えているかについて講義された。午後は映像を鑑賞し、家族環境や経済的な苦しみを抱える子どもが、どのように育ち、どの



▶堀浄信施設長

ように支えられていくことが大切なのかを学んだのち、子どもと接するうえで、具体的なヒントとなる話をいただいた。総勢146名が参加。

安心して生きられるために

門徒推進員

10月27日(日)～28日(月)にかけて、第四連区門徒推進員実践運動研修会がWASHUBLUE RESORT 風籠を会場に、備後教区門徒推進員連絡協議会引受けにて開催した。中・四国から131名の門徒推進員が参集した。

研修会は、宗派重点プロジェクト「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace「子どもたちを育むために」を推進するため、「みんなが安心して生きられるために 支え合い 想い合い 助け合い つながり合い」をテーマに開催された。

講師の鷲尾衛鳳連研中央講師(兵庫教区神戸湊組宝珠寺住職)より問題提起を頂いた。

初日、問題提起を受けた後、四分科会(①今こどもたちは②家

族のあり方③今地域社会は④苦しみを抱える人老い病む人と(ピハークラ活動)に分かれ議論を交わした。

二日目は、全体会並びに講師よりのまとめの講義を頂き、それぞれの立ち位置で「みんなが安心して生きられるために」何ができるか考える研修会となった。



▲第四連区門徒推進員実践運動研修会

不法投棄事件に学ぶ

同朋社会部

10月29日(火)～30日(水)にかけて、同朋社会部会主催による環境問題・人権問題現地学習会を開催した。一日目は、香川県・豊島で起こった産業廃棄物の不法投棄事件について、事件発生当初より無害化に向けた運動を展開している石井亨さん(廃棄物対策豊島住民会議)からお話を伺った。二日目は、徳島県で町をあげて

可燃ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)に取り組んでいる上勝町に向かった。現地では、特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー理事よりお話を頂き、環境・人権問題について考える二日間となった。



▲可燃ごみゼロの取り組みの説明

刻々と変化する社会の中で

総代会

11月6日(水)～7日(木)、比婆組妙延寺(尾野義顕住職)、神辺文化会館を会場に門徒総代会研修会を開催し、両日ともに95名を超える総代方にご参加いただいた。研修テーマ「御同朋の社会をめざして」今のままではいけないのでしょいか」と題し、麻布明徳住職(東海教区中勢組善福寺)よりお話しいただいた。

刻々と変化する社会のなかで、寺院の抱える問題は、規模や所在地域性により様々である。総代それぞれが所属寺の抱える問題を住職・寺族とともに共有し、語り合うなかで今後のお寺のビジョンを模索していくことが大切であり、総代としてお寺を護持し、どのように法義を広めていくか参加者それぞれに考えていただく研修会となった。



▲南部・北部で開催された総代会研修会

特別布教大会

布教団

お寺の子どものつどい

寺 婦

しみ、将来備後教区を中心に活躍する子どもたちが教堂本堂での充実した一日を過ごした。



▲沼隈南組西光寺で開催された特別布教大会

11月22日(金)、沼隈南組西光寺(箱田義信住職)の報恩講に併せて、備後教区布教団主催の特別布教大会を開催させて頂いた。多くの参拝者が、親鸞聖人のご苦勞と遺徳を偲び、報恩謝徳の一念仏のお心を聴聞するご縁を頂いた。

出講者は次の通り(敬称略)
那須智雄(沼隈西組大東坊)
佐々木弘海(鴨川北組照専寺)
藤井義英副団長(比婆組西教寺)

全員でお弁当、役員の用意した汁物とデザートを食べ、午後からは子どもたちだけで「らいはいのうた」をお勤めした。その後、松井一昭住職(深津組慶満寺)による法話とゲームを楽



▲落雁の供物作りに挑戦

11月30日(土)、寺族婦人会連盟では、本堂莊嚴をそのままに、お寺の子どもたちによる「子ども報恩講」を開催した。「自分たちで報恩講をお勤めしよう」というコンセプトで開催し、午前中は藤田徹信勤式指導員の指導のもと、親子が協力して供物作りを行った。小さな落雁の供物ではあるが、色合いや専用のりで貼る位置を調整する等、やりなおいながら楽しく手作りする子どもたちの姿が印象的だった。

仏婦会員研修会

仏 婦



12月6日(金)、仏教婦人会連盟では、総連盟重点目標「聞法につとめ、念仏のよろこびを伝えていく」の学びを深めることを目的とし、「なぜ仏法を聞かなければならないのか」を講題に白川晴顕前中央仏教学院長を招聘し研修を行った。講師は、浄土真宗の教義の基本的な教学を踏まえつつ、聴聞によって念仏者がどのように変化していくのかということをはかりやすく話された。参加者は158名。

教区月報 2019

10月	連区青年布教使研修会 (2日 四州)
1日	2日
2日	3日
3日	4日
4日	5日
5日	6日
6日	7日
7日	8日
8日	9日
9日	10日
10日	11日
11日	12日
12日	13日
13日	14日
14日	15日
15日	16日
16日	17日
17日	18日
18日	19日
19日	20日
20日	21日
21日	22日
22日	23日
23日	24日
24日	25日
25日	26日
26日	27日
27日	28日
28日	29日
29日	30日
30日	

「憲法問題」に関する学習会

同朋社会部

12月12日(木)、備後教堂において同朋社会部会主催「憲法問題」に関する学習会を開催した。講師に、菅原龍憲代表(真宗遺族会・山陰教区大田東組正藏坊前住職)をお迎えし、「即位の礼・大嘗祭と信教の自由―真宗者の立場より―」をテーマに講義を頂いた。学習会には14名が参加し、それぞれ学びを深める場となった。



▲菅原龍憲真宗遺族会代表

連研履修者のつどい

門信徒部会

12月17日(火)、本年度第12期連研を修了された世羅組善行寺(真澄慎一住職)を会所に連研履修者のつどいを開催し、連研修了者を中心に51名の参加があった。体験発表では2名の門徒推進員より中央教修受講の動機や、教修内容についての発表をいただいた。その後、岩尾秀紀連研中央講師より問題提起をいただき、午後からは5班に分かれての話し合い法座を行った。



▲岩尾秀紀連研中央講師

未来を考えるために

寺院振興対策

12月19日(木)・20日(金)の2日間、第4連区教区寺院振興対策委員会連絡協議会が開催された。第4連区内の各教区寺院振興対策委員会代表者及び事務担当者が出席し、19日の研修では、坂原英見住職(三次組東光坊)より、「過疎地に生きて、未来を考えるために」と題しお話をいただいた。その後の連絡協議会では、出席いただいた過疎対応支援員より活動現況、連区内各教区の推進状況について報告し、各種意見交換を行った。

▲教区寺院振興対策委員会連絡協議会
▼御調西組龍見寺の活動の視察

20日は、寺院視察として御調西

11月	1日	子ども・若者ご縁づくり 推進委員会	5日	災害対策委員会	6日	門徒総代会研修会 (比婆組 妙延寺)	7日	門徒総代会研修会 (神辺文化会館)	8日	法式法務専門委員会	11日	教堂常例法座	12日	同朋社会部会	13日	部落解放基礎講座 おつとめ教室・勤式練習会	15日	ビハーラ相扶園実践学習 IT専門委員会	22日	特別布教大会(三次組 西光寺)	25日	仏婦おみがき	29日	教堂報恩講	31日	お寺の子どものつどい	12月	門徒推進員聞法のつどい	2日	仏婦会員研修会	6日	団長・副団長会議	9日	護持口数調整小委員会	10日	教堂常例法座	11日	憲法問題を考える学習会	12日	合同学習会	14日	仏壮理事会	17日	連研履修者のつどい
-----	----	----------------------	----	---------	----	-----------------------	----	----------------------	----	-----------	-----	--------	-----	--------	-----	--------------------------	-----	------------------------	-----	-----------------	-----	--------	-----	-------	-----	------------	-----	-------------	----	---------	----	----------	----	------------	-----	--------	-----	-------------	-----	-------	-----	-------	-----	-----------

組龍見寺(小島照行住職代務)を訪問し、地域おこしの一環としてお寺を会場に開催された「お寺でマルシェ」について小島住職代務、またイベント企画運営に携わられたギークハウス広島篠崎初光さん、龍見寺総代・仏婦の皆様からお話を伺った。

「報恩講」の歴史を学ぶ

勤式

2月12日(水)、後期勤式研修会を本願寺備後教堂において開催し27名の参加があった。講師に、安藤弥教授(同朋大学文学部仏教学科、同朋大学佛教文化研究所所長兼「いのちの教育」センター主幹)をお招きし、「本願寺『報恩講』の歴史的成立・展開」と題し、講義を頂いた。

本願寺教団の歴史の変遷を基に、報恩講をお迎えする意義について学びを深める一日となった。



▶後期勤式研修会

自死を考える学習会

同朋社会部

2月20日(木)、自死を考える学習会(同朋社会部会主催)を備後教堂において開催した。

講師は、昨年に続き、岡野里美さん(自死遺族の会・びんご会員)をお迎えし、第一部「自死の裏側・SNS」と精神医療」・第二部「孤独な自死遺族たち」をテーマにご教示いただいた。自死遺族の心境や、遺族を取り巻く状況について考える場となった。

平和に向けた道

矯正教化

2月25日(火)、26日(水)の2日間、山陰教区引受けによる、本派矯正教化連盟広島管区支部研修会が開催された。備後教区からは2名の参加。鳥取刑務所にて、受刑者の刑務作業や、刑務所という場のもつ意味、更生とは何かに

ついてご教示いただいた。その後、加納佳世子館長(安来市加納美術館)より、「赦しの意

味を考える・画家加納莞蕾の平和思想」という題で基調講演をいただいた。フィリピンの刑務所で服役していた、日本人戦犯への嘆願書が当時のフィリピン大統領に届き、戦犯全員の赦免という結果をもたらした。

莞蕾の「許し難きを許す」という考えが、平和に向けた道の第一歩であり、平和を脅かす戦争を、決して忘れないのだということを学んだ。



▲矯正教化連盟広島管区支部研修会

実践運動研修会

布教団

2月27日(木)、布教団主催による部門別・実践運動研修会を備後教堂において開催した。

午前中の実践運動研修会では、宗門重点プロジェクトへ貧困の

11日	7日	4日	3日	2月	31日	29日	28日	27日	26日	24日	23日	21日	20日	18日	17日	14日	11日	1月	26日	23日	19日
(世羅組 善行寺)																					
第四連区勤式研修会(山陰)																					
第四連区教区寺院振興対策委員会																					
連絡協議会 (ゝ20日)																					
組長会																					
第23回真宗講座																					
教堂常例法座																					
合同学習会																					
教区事業検討委員会																					
若婦人専門委員会																					
ビハーラ備後役員会																					
おつとめ教室・勤式練習会																					
子ども・若者ご縁づくり連絡協議会																					
重点プロジェクトリーダー研修協議会 (ゝ24日)																					
布教団役員会・青年布教使研修会																					
門推世話人会・新年会																					
門信徒部会																					
法式法務専門委員会																					
広報専門委員会合同会議																					
同朋三者懇話会(広島別院)																					
第24回真宗講座																					
青年教化指導員研修会																					
(ゝ4日 本山)																					
仏婦役員会																					
護持口数調整小委員会																					
教堂常例法座																					

拡大と拡充をめざし

仏 壮



▲仏教壮年会セミナー



▲岩本智依先生

克服にむけいゝ Dana for World Peace いゝ子どもたちを育むためにいゝを推進・取り組むために、岡崎秀磨先生(浄土真宗本願寺派総合研究所教団総合研究室 上級研究員)にお越し頂き「日本における貧困の背景と現状」について講義を頂いた。

午後からの部門別研修会では、岩本智依先生(一般財団法人同和教育振興会研究員、奈良教区奈良組 常蓮寺)をお迎えし「み教えと性の多様性」についてご教示いただき、終日、研鑽の場となった。

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、ご一報ください。

TEL (084) 924-5759
fax (084) 931-9323

メールアドレス

h2012@bingo.gr.jp

ホームページアドレス

http://bingo.gr.jp/

2月29日(土)、教区仏教壮年会連盟では、宗派連盟結成より10年が経過し、仏教壮年会の更なる拡大と拡充を目指し、寺院仏壮結成に向けた研修会を前身とする「仏教壮年会セミナー」を開催した。甲田理事長、石井輝美元理事長による活動事例発表、高橋哲了仏壮連盟講師による問題提起、4班に分かれての班別討議、各班の討議内容発表を行い、最後に講師のまとめの講義で締めくくられた。

講師は「寺院単位での仏壮結成が難しい場合は、組単位での活動を始めてみてはどうか」と提言し、仏壮会員一人ひとりが自覚をもって働きかけていくことを促した。

各法人からの県庁への書類提出期限は
7月31日です。

広島県の寺院 (電話 082-228-2111)

〒730-0011 広島市中区基町 10-52

広島県庁内 環境県民局 学事課

岡山県の寺院 (電話 086-224-2111)

〒700-8570 岡山市北区内山下 2-4-6

岡山県庁内 総務部 総務学事課

未提出の場合、10万円以下の過料処罰金が発生します。お忘れなきようご留意下さい。

お坊さんステーション

放送時間

月曜…午後6:10頃

木曜…午後6:10頃

FM77.7MHz FM77.7MHz
Radio BINGO FM77.7MHz

29日	27日	25日	21日	20日	19日	18日	14日	13日	12日
寺院仏壮セミナー	部門別実践運動研修会・臨時総会	接委員研修会(26日 鳥取)	管区支部教誨師・篤志面接委員研修会	常備会	おつとめ教室・勤式練習会 自死を考える学習会 同朋社会部会	連区実践運動研修会 (19日 高知)	F M委員会	第95回同朋三者懇話会報告会 僧侶研修会・御調束組 照源寺	定期式研修会

今後の予定

4月

- 4日 門推世話人会
11日 教堂常例法座
12日 仏壮総会研修会⇒6月7日に延期
13日 仏婦総会研修会(ローズコム) ※中止
中四国少年連盟連絡協議会 ※中止
(～14日 山口)

- 17日 仏婦総連盟総会(本山) ※中止
20日 おつとめ教室・勤式練習会
24日 ビハーラ備後役員会

5月

- 11日 教堂常例法座
25日 おつとめ教室・勤式練習会
26日 寺婦新旧役員会

6月

- 1日 仏壮全国大会部門会議
(世羅組 善行寺)
4日 仏壮全国大会部門会議
(三次組 源光寺)
7日 仏壮総会・研修会
11日 教堂常例法座
12日 ビハーラ備後総会・公開講座
15日 おつとめ教室・勤式練習会
18日 布教団総会・研修会
19日 布教団夏期布教大会
24日 中四国ブロック少年連盟指導者
研修会(～25日 山口)

教化資料 Box

◆こどもほうわ

仏さまの教えに触れることが少なくなった今の時代に、子どもと一緒に大人も阿弥陀さまのみ教えに触れていただきたいという願いから、備後教区子ども若者ご縁づくり推進委員会で作成いたしました。お寺にお参りされた方へ配布し、ご家庭で親から子どもへのよみきかせに、またお寺にお参りの子どもたちへのご法話に、ひろくご活用ください。

※無償配布、但し郵送の場合のみ送料ご負担ください。

1号 「阿弥陀さまの限らない大きさ」
2号 「おかげさま」
3号 「阿弥陀仏になった法蔵菩薩」
4号 「イチジクの実」



◆なるほど仏事

身近な仏事作法について、各号テーマを掲げ、イラストを交え分かりやすく解説していくリーフレットです。お寺にお参りされる方へ配布用に、または学習会等の資料テキスト等にご活用ください。

※無償配布、但し郵送の場合のみ送料ご負担ください。

第1回 「法事の進め方」
第2回 「ご本尊」
第3回 「合掌・礼拝」
第4回 「報恩講」
第5回 「お墓(建碑式)」
第6回 「おつとめ」
第7回 「仏前結婚式」
第8回 「はじめてのご法座」
第9回 「焼香」
第10回 「弔辞・弔電・謝辞」
特別号 「浄土真宗のお仏壇(解説)」
お仏壇リーフレット(浄土真宗本願寺派のお仏壇)と併せてご使用いただく特別号となります。基本的なお仏壇の荘厳について、供物について等、全編カラーにてわかりやすく解説しています。



◆読んで聞く法話シリーズ

備後教区布教団にて編集発行されたリーフレットです。

※1部5円、200部以上より注文可

シリーズ① 「お通夜をご縁に」
シリーズ② 「今、だからお寺」
シリーズ③ 「法事に集う」



得度許可

おめでとうございます
「敬称略」

沼隈西組 善立寺

内海 一恵(釋一華)

(令和元年6月15日付)

沼隈西組 来福寺

伊木 求(釋求導)

(令和元年9月15日付)

三谿組 善徳寺

長谷川さとみ(釋弥智)

三次組 法正寺

和泉 順香(釋順香)

三次組 專正寺

深水 美樹(釋美樹)

世羅組 明善寺

中元 初枝(釋龍令)

世羅組 法泉坊

毛利 真子(釋芳眞)

世羅組 專光寺

高丸ひろみ(釋華蓮)

(令和元年10月15日付)

備中里組 正専寺

山岸百合子(釋百蓮)

三谿組 法専寺

加藤 崇司(釋哲願)

世羅組 教専寺

鳥居友佳里(釋飛天)

(令和元年12月15日付)

教師授与

おめでとうございます
「敬称略」

深津組 光榮寺

平山 文華(釋文華)

沼隈南組 善徳寺

佐藤 真弥(釋惠眞)

(令和元年11月21日付)

敬 弔

お悔やみ申し
上げます
「敬称略」

三次組 專正寺

深水 昭道(12月11日寂)

三谿組 淨圓寺

宮 伸(12月16日寂)

備中里組 本林寺

宇田 千恵子(12月28日寂)

奥 組 浄福寺

山下 清枝(1月30日寂)

沼隈西組 西明寺

赤柴 恵子(2月12日寂)

世羅組 専光寺

高丸恭仁子(2月14日寂)

三次組 高輪寺

吉田 恭(2月28日寂)

香典返礼

ありがとうございます
「敬称略」

沼隈南組 寶福寺様

世羅組 西教寺様

備中里組 本林寺様

より香典返礼を頂きました



本願寺備後教堂(毎月11日)

常例法座案内

出講者(敬称略)

4月「いぬるところがあるけえ
はあ 安心じゃ」

三次組 福泉坊

水戸 浩文

5月「真の仏弟子というは…」

鴨川北組 照専寺

佐々木 至成

6月「仏身円満にして背相なし」

三次組 善照寺

安部 恵証

7月「お念仏に出遇って」

三谿組 明玄寺

法宗 正勝

編集後記

新型ウイルスの影響

響をうけて、小中高

の休校、各種イベントの中止、休

園というニュースが連日のように

報道されている。教区内のお寺も、

三月の法座は中止、縮小したとい

う話題を耳にします。(ウイルス

が) 見えないから難しい▼いつま

で自粛か先行きが見えぬ不透明な

状況で、ふと「冥加を恐れる」と

いう言葉を思い出す。冥加は、目

には見えないけれども、はかりし

れない仏のはたらきを表現する言

葉の一つで、これを恐れるという

のは、見えないものを恐れるとい

うよりは畏れ多い、かしこまる、

という意味合いらしく、「冥加も

なき〓勿体ない」という意味で使

われていたようだ▼デマや迷信に

みちた情報で不安や恐れを煽るの

ではなく、蓮如上人が「いよいよ

冥加を存すべき」と仰っていたよ

うに、各々見えないはたらきがあ

ることを理解して誤り偏見差別を

正していく自浄作用を発揮してい

きたいものです▼法座を中止にす

る判断も、逆に勿体ないというの

も一つのご縁でしょう。その判断

の善悪は問えないですが、悩まし

いものです。(KF)

智慧と慈悲のはたらき

僧侶研修会

教区内僧侶の研鑽を図る

2019(令和元)年度備後教区僧侶研修会が、2月14日(金)、御調東組照源寺(久本晃道住職)を会場に開催され、62名が参加した。

講師に、内藤昭文司教(大分教区下毛中組法行寺住職)をお迎えし、「智慧と慈悲」と題し、講義をいただいた。講義内容の要点は次の通り。

智慧と慈悲は、バラバラではなく、一つに支え合っている。お釈迦様の教説である、「自灯



▲内藤昭文司教による講義

明・法灯明」「自らを灯明とし自らを依りどころとせよ、法を灯明とし法を依りどころとせよ」を通して、「自」とは、仏

の教法を灯明とし照らし出さ

れ、知らしめられた「自ら」で

あり、その教法とは、煩惱成就

の「私(自ら)」をまさに照ら

し教え導く「法」である。そし

て、その教法を灯明とするところ

が「法灯明」である。重要な

ことは、「自灯明」と「法灯明」

が別々ではなく、二つで一つで

あること。親鸞聖人は、「煩

悩成就の凡夫」「罪惡深重の凡

夫」と言われたが、それは、聖

人が「南無阿弥陀仏」のお念仏

の中に知らされた「自ら」の姿。

この六字の名号(弥陀の喚び声)

は、如来の智慧と慈悲のはたら

きであり自己中心的な貪欲(む

さぼり)・瞋恚(いかり)・愚痴

(おらかさ)の三毒の煩惱に振

り回されて苦悩する我々を育み

救うため、無条件に見捨てること

となくはたらく大慈大悲であ

る。この大慈悲は智慧に裏付け

されている。だからこそ、その

如来の智慧に照らされた「自

ら」の姿を、聖人は「煩惱成

就の凡夫」と言われた。智慧と慈悲は、バラバラではなく、一つに支え合っている。

(講義より)

報恩講が勤修される

教堂

11月29日(金)、本願寺備後教堂報恩講法要を勤修した。午前の初座法要では、五會念佛作法にて、ご本尊の周りを一匝する行道作法を依用した。午後からの満座法要では、沼隈西組・三次組より各3



名に内陣出勤いただき、廣文類作法をお勤めし、法要後は和泉裕生教区勤式指導員補佐に御伝鈔を拝読いただいた。

この度の報恩講ご講師、多田満之布教使(兵庫教区赤穂北組浄光寺)より「眼に見えるもの 見えないものの働き」と題しお取次ぎいただいた。

昼休憩には、ボーモリーズによるコーラスや、僧侶表彰式が行われた。

僧侶表彰者(敬称略)

住職在職30年表彰

深津組 専光寺 藤井德行

鴨川北組 正明寺 渡邊秀導

芦田組 徳円寺 田坂健爾

芦田組 西圓寺 山名 淳

三谿組 正法寺 小武秀道

住職在職50年表彰

比婆組 徳了寺 村上俣筭

僧侶90歳表彰

中組 西明寺 瀧本清志

奥組 永寶寺 前田孝昭

沼隈西組 大東坊 渡邊頼司

比婆組 在安寺 渡辺義宣

比婆組 妙延寺 尾野喜美